

琉球大学学術リポジトリ

多様な生息環境とクビワオオコウモリの生態的可塑性－亜種間の繁殖特性の比較から－

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム 公開日: 2008-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中本, 敦, 佐藤, 亜希子, 伊澤, 雅子, Nakamoto, Atsushi, Sato, Akiko, Izawa, Masako メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/4972

多様な生息環境とクビワオオコウモリの生態的可塑性
— 亜種間の繁殖特性の比較から —

(Ecological plasticity of the Ryukyu flying-fox in various habitats: a comparative study of the reproductive traits among subspecies)

中本 敦・佐藤亜希子・伊澤雅子

(Atsushi Nakamoto, Akiko Sato and Masako Izawa)

琉球大学・理学部

琉球列島に分布するクビワオオコウモリ *Pteropus dasymallus* は島嶼群ごとに4亜種に分けられる。これら4亜種は大きく異なった環境に生息している。すなわち温帯域に生息するエラブオオコウモリ *P. d. dasymallus*、都市環境へ適応した沖縄島のオリオオコウモリ *P. d. inopinatus*、海洋島個体群である大東諸島のダイトウオオコウモリ *P. d. daitoensis*、生息地の一部に在来の捕食者が生息するヤエヤマオオコウモリ *P. d. yayeyamae* である。本研究は、生息環境の違いが本種の生態にどのように作用しているのかを、特に繁殖生態の側面から明らかにすることを目的としている。

今回は、そのうち3亜種を対象として、主にダイトウオオコウモリについては野外調査を行い、オリオオコウモリに関しては演者らの既存のデータを、エラブオオコウモリについては既存の文献を用いて比較を行った。また、繁殖スケジュールは餌資源量の変動に左右されると予想されるため、沖縄島と南大東島の餌植物のフェノロジーの相違についても調査を行った。

繁殖スケジュールを明らかにするために、南大東島において2007年6月から11月まで夜間にダイトウオオコウモリのセンサス調査を行ない、全島の推定個体数(2003年)と目撃された独立幼獣数の比率から出産率を推定した。また、交尾期を特定するために、飼育下のオリオオコウモリの睾丸サイズを2006年5月~2007年4月まで毎月計測した。睾丸サイズの季節変化から推定されるエラブオオコウモリとオリオオコウモリの交尾期のピークは一致し、その他の観察からも、繁殖スケジュールについて亜種間で大きな差異は認められなかった。しかし、ダイトウオオコウモリの出産率(30-50%)はオリオオコウモリ(76.9-94.9%)より低く、さらに親子の出現期間が長いことから、出産時期の遅延または育児期の延長が示唆された。この要因として、生息面積の限られた南大東島では餌の条件が悪く、メスの栄養状態が悪いためであると考えられた。

さらに気温が活動パターンに与える影響を明らかにするために、これまでに得られたラジオ・トラッキングデータ(2002-2006年)からオリオオコウモリの活動開始・終了時間について解析した。エラブオオコウモリとオリオオコウモリの活動開始時間には差異は見られなかった。しかし、オリオオコウモリの同亜種内でも山地部の活動開始時間は都市部より早い傾向が見られた。